



ふるさとを
たずねて

松前城跡 (町指定史跡)

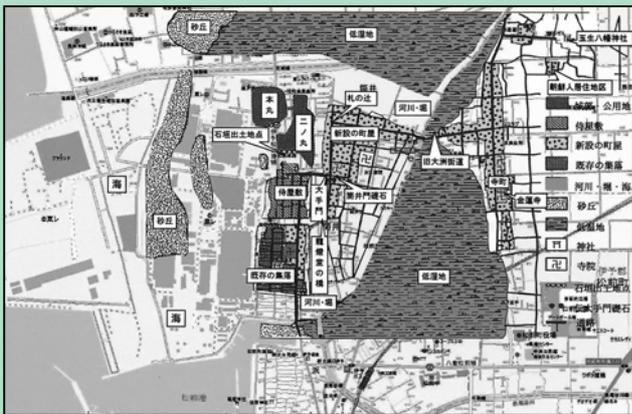
松前町文化財保護審議委員 清水 勝義

現在東レ(株)愛媛工場正門前に花崗岩の松前城跡の碑が建てられている。題額は坂の上の雲の主人公陸軍大将秋山好古の書で、松前城の歴史碑文は郷土史研究家西園寺源透による撰文である。

大山祇神社に伝わる古文書「三島家文書」によると、建武3年(1336)南朝方の合田弥四郎貞遠が多くの軍勢を率いて伊予郡松前城(当時の表記は松崎城)に立てこもったのを攻撃して攻め落とし、さらに合田貞遠が松前城を逃れ由並の城にひきこもるとあり、松前城はこれ以前にあったことになるが、それ以前の文献がなく詳しい変遷は定かでない。

その後各氏の居城となったが、文禄4年(1595)加藤嘉明が淡路志智城から松前六万石に移封された。嘉明はその後、慶長の役の功により十萬石に、さらに関ヶ原の戦いの功により、二十萬石に増加された。

その間嘉明は松前城の大拡張、港の改修、伊予川(現重信川)の改修を行い、城東の守りとして西古泉に寺町を建設し、堅固な松前城下町を形成した。後に嘉明は、地の利を得た松山に城を移すことを考え、慶長6年(1601)幕府の許可を得て、松山築城に着手し、同8年10月松山に移り、松前城は廃城となった。このとき家臣も商業もお寺も、政治、経済がともに移動した。



松前城下町の推定復原図(阪南大学富田泰弘先生作成復原図を基に現代地図上に松前史談会で展開)

その後明治の末に行われた耕地整理などによって城跡は壊され、昭和13年(1938)東レ愛媛工場誘致とともに本丸古城跡も敷地内に消滅してしまっただのである。
嘉明は33年余人生の大半を伊予に係わりを持った人物であった。もし嘉明がいなければ松前は様相を異にしたであろうし、今日の松山もなかったであろう。
大正14年(1925)松前城の歴史を略記した「松前城跡」の碑が建てられた。

ふるさと歴史散歩④⑥

伊予神社(神崎)―伊曾能神社(宮下)―伊予神社・時雨神社(上野)巡り

(松前史談会レポート)

今日は、南北にほぼ一直線に並ぶ3神社を巡る。いずれも名前の最初に“伊”がつくのもなにかの縁か。そういえば、伊予豆比古命神社(椿さん)もその線上にあり、“伊”がつく。

律令制のもとでは、伊予の国には14郡がおかれ、伊予郡6郷はほぼ平野が全面に分布した先進地であった。延長5年(927)にまとめられた「延喜式神名帳」に記載された神社を延喜式内社(単に式内社)というが、伊予の国にある24式内社(大社7・小社17)のうち、伊予郡に4社(大社1・小社3)が集中しているのを見ても、それがわかる。官社(官弊社・国弊社)と諸社(府社・県社・郷社・村社・無格社)の社格をいうのは明治以降のことであるが、現在は廃止されている。

① 伊予神社(神崎)

東公民館は、旧北伊予村役場があった場所にある。ここは、松山から郡中へ(谷上山や大洲へ)行く道と、砥部と松前をつなぐ道が交差する交通の要であった。金毘羅さんや子の日権現の案内をする石柱も残っている。現在は、鉄道や新道の建設で様子が変わっているが、黒住教の角あたりに当時の交差点の跡が見える。伊予神社はそのルート上にあり、社前は多くの旅人や参詣人で賑わったであろう。

境内には、“入らずの森”や鎌倉時代のものという“五輪の塔”群などもあり、式内大社の風格を今も残しているが、別当寺であった真常寺(現在の晴光院)の広大な寺域や霊泉の面影はない。参道は、山並みに向かって真東を指している。本堂へ向かうと多くの境内社があり、第二次大戦に出征して還らぬ神馬の台座も見える。正面に掲げた彫刻、全体の屋根組、神殿の素晴らしさは、さすがである。

以下は次号。3月のふるさと歴史散歩は休みます。

問い合わせ 松前史談会(鷺野) ☎984-5439



▲拝殿…「破風の彫刻が素晴らしい」山宮さんの説明を聞く参加者



▲神殿…深い森と霊泉に囲まれていた。千木・堅魚木・長く美しい反りのある庇に威厳を感じる



▲神殿裏の入らずの森…後方に五輪の塔が見える。呪いの「丑の刻参り」の話も…